

碁老連 ニュース

#105号

碁老連の目的

ボケ防止のために、老人団体は好色の誰もが『碁老連』ことが出来よう。社会と場所を確保するためには相依りし、囲碁を通じて親睦を図り、更には、より良き福祉社会の建設に貢献することを志願とする。

発行日	平成10年10月15日
発行所	八生手の碁老連・じゆじん連合
データ	八生手市役所本町/432-466 TEL (0426) 66-3754
発行人	横山正一

開 碁 講 教

囲碁は、莫差表を普及する人間活動である。

囲碁には、棋理があり、道徳があり、そして、藝術がある。

宇宙論とは、時空を超越した絶対の存在。

有報伝説面は、無限反復率の象徴。

天元は、太陽であり、万物統一の中心、361路の目通りは、一年の日数を表す、白黒の碁石は、天地陰陽の理を包含する。

万物は流動し、生成消滅する。

つも、その中に、穏然たる秩序があり、全体としては、見事に調和されている。

囲碁の本質は、調和と秩序にありともいいう。

大脳にて細心、細心にて大脳、その均衡を相備え、大をとり、小へを捨て、先後、後先を識るなどとなく、常に大局を運転し、万事において、最高の場合はを忘れるなどなく、その時、その場に応じて、最高、最高の手を行つて肝要あり。

一番の教は、人生そのものである。

序盤は、人生の青春時代、夢めり、希望がある。

中盤は、人生の実年時代、波乱万丈、生成老衰、創造の時代でもある。

終盤は、人生の熟年時代、収穫の時代、深き時代でもある。

囲碁の中には、無限の人生訓がある。

急がず、さわがず、正々堂々と打つこと。

自分だけが得をしむりという、独善流、自らの心をもたないこと。

耐え忍ぶことと、受け容れること。

感情的になることと、相手に利することである。

打ち過ぎて、負けろことを知ること。

失敗の原因は、すべて己れにあり、それを、他に転嫁しないこと。

勝つことはかりが、大切なのではなく、負けることも、また、大切である。

石には生命があり、愛情が大切である。

石の生命とは、一石一石が、全体の流れと、調和し、脈々として、息づいていることである。

絶対、孤立した石を、打たないことである。

愛情とは、相手を思い、全体を思う心であり、自己中心と、全く、対立の心である。

一石一石の衝立の意義、その存在価値を、正しく評価し、認めることである。

既に打たれた石に対する、絶対、光の罪を責めないこと。

それ故、最大限に活用することを考え、時には、全体の石との関連において、捨てねよとして、使用不可ことも、考え方である。

どう考えてても、相手の無理筋、打ち過ぎであると、考え方時は、断手として、各所打らなければ、敗北とも、併せむること。

これは、後の歴史鉄道であり、極地でもある。

心、技、体の一体こそ、人間能力の調和、最高の姿である。

棋道の完遂、大成を、まことにあら。

技術を磨き、体力を鍛錬することは、大前提であるが、一石一石を、精魂を込め、

棋道の真髓にこめて、打つことこそ、人間としての真の豊かさであり、向上がある。

宏大、深遠、無限の大宇宙の姿そのままで、そして、偉大なる我等が人生を、有限なる盤上に象徴する。

何と棋道とは、人類の歴程がもうした、偉大なゲームであり、藝術でもある。

囲碁とは、我等が人生の、最高の師であり、最高の友でもある。以上

朝日新聞社
社長 松下宗之助

平成10年10月15日

八王子の暴走集団殺人連合
会長 熊崎正一

賊に落ちない記事に関する質問状提出の件

拝啓 早速承べら失礼します。

さて、私は、昭和9年以来60数年間（現在65才）朝日新聞の継続した読者として今日に至つておりますが、昨年末「賊に落ちない記事」が氾濫し、少くとも落つております。

ついては、社の立場が裏更生化なのか、或は、外圧としても順応しているのか判りませんが、とりあれど、下記のような疑問美に因る「新聞切り抜き」を添付した質問状を提出させて復きましたので、御検討中恐縮ではございませんが、御検討の上何かの御返事を賜り度く仰願いたし上げます。

記

A. 平成9年7月13日付の社説（別途添付材1号に収録）を拝見以来、貴社に対する焦燥感に悩まれ、其の後も社説を拝見する度毎に反感を感じております。

この際、貴社に方かれても「世界の一流新聞社」としての名譽にかけても、日本国の報道機関としての正道を踏み外さないよう切望する次第です。別途添付材1号、官民対話として橋本首相相違の落し工作とも想定される報道等の公的報道機関としての権利を越えたと思われる報道取扱（平成9年7月14日～9年12月5日）

B. 平成10年1月1日付の年頭記事抜録（別途添付材2号）

1. 社説、「取り扱う「人間大」を」

久々振りに、朝日新聞の社説らしい格調の高い社説を拝見させて復せざりました。

お蔭様で、半年振りに「いろいろ」が收到し、爽やかな気分に浸つております。

つきましては、次の点に因し、小生なりの考え方を申し述べさせて復せます。

① 放機資金という「巨木化ケ物」について

クルナン放牧は、アメリカの豪傑に匹敵しない橋本放牧とその根幹となつてゐる官僚組織に対する「懲罰的圧力」を行使

(2)

2

するに、金や謀略を駆使し、「橋本政権（久し振り）に日本再建が期待されている」の崩壊と、「官僚機構（世界が世界一だと絶賛している）の環礁を企図し、いろいろと謀略を巡らしているようである。

然しながら、これは表面的な現象であって、心配するほどの問題ではなく、十分対応可能な事柄である。

むろん、日本国としての重大な問題は、世界制覇を企んでいる「闇の帝王」が国際救援資金（社説があらわしてある）による世界経済の操弄工作（在来年後にも日本銀の外債操作など論外）を第一攻撃として、いまいふ、最強の大白人を主体とした世界制覇達成のための各種的不法行動が展開されものと推察し、危機感を募らせていく次第である。

尚、朝日新聞社も闇の帝王の網の中に入りついているではないでしょうか、他人事ながら、題材となる状況のように見受けられます。

- (2) 国民国家と民主主義が無力化され、危機に陥っています。について 政治思想の限界が近づいていくという事のようと思料しておりま加
- (3) 日本以外、これまで官僚による統制や産業界の協調が如きには強すぎた。について

おこりやる通り、終戦後、資源のない日本が世界相手に競争のための便宜的手段として採用した「規制措置」であつて、「善・悪ではなく」、「生き残りの手段」と承知しておけます。

従つて、世界各国の情勢に適応しながら、段階的に規制廃止に踏み切るべきものと恩斜致しておりますが、現時某では、強制的统一規制は無理ではないでしょうか。

- (4) 「人間大」の社會主義がえらせる道として、「人間が主役」であることを一人ひとりが思ふ起きたか、たぶん、方法はない。// について 人間が主役であるとの論據については、異論はありませんが、人間は所屬する民族、国家によって価値観が相違するものです。

例えば、朝日新聞の社長が他国に駐在している場合、各國は、個人の能力など余り問題とせず、「日本の朝日新聞」として萬人評議し、参画されているのではないかでしょうか。

又、世界各国に進出している日本人も、日本国のお誂い次第で、待遇に差異が生じることなく、身を以てて体験しているとのお言葉を耳に立ちます。

従つて、特上日本人の場合は、「人間主体論」ではなく、「国家主体論」を展開して頂く方に期待しております。^{3,}

以上4件に因り、随分と身勝手なことを申し述べさせて頂きましたが、
僕「社説」に関する表裏がなく「正しい街意見」として採用しないから
敬意を表し、お伝えできることを光榮と存じております。

2. 「いつのセミレーション(時時刻刻)「今年の政界、どんな夢」、
首相退陣の巻「ポスト橋本」本命は石井れ。

日一送金の巻「死に体」避ひる特務軍。

橋山政叔誕生の巻「朝セウル」急務にかも。

「鬼いがけないドラマが始まりそろはや良が深う」等、参院選を見越して「橋本政権」追跡との予告か。

新番組、何のために、このような記事を書かれしたのか、理解に迷った。

3. 「覆ふ「日本史の意識」」

「史学者と文化人類学者の対談。

要体はかつて「工農工商」、「大和民族」は近代の主張
陸橋とこの日本列島、明治国家の羅、差別と民族。等々
いろいろと羅列されておりましたが、我々平民にとって無用な事柄で
何のために、こんな民族を仕組まれたのか意味が判りません。
それ次、終戦当時の「天皇問題」の大きな脚得意の「やうせ」と何
か曲解されているのでしょかんお伺いしたいのです。

筆のついでにもし御承認頂けるなら、朝日新聞の調査という
ことで、次のようにアマチュアの筆者ヒント、方々の御意見を伺って
頂けないものでしょか。

記

- (1). 織田信長はキリスト教伝道師の懲懃に集り宿山の煙を打ち上げながら、後日、本能寺において焼死し、併罰を蒙ったような結果となつてゐる。
- (2). 藩臣等者は、キリスト教伝道師の懲懃に集り、朝鮮に無意味灰候路を強行し、失敗の上、自らの寿命を縮めてしまつた。
- (3). 佐原の亂は、天草四郎といふことになつてゐるが、実情は、キリスト教××××会が主体となつていた
- (4). 德川家康は、以上3件により、キリスト教の邪魔を目的の日本を頼むことを看破し、キリスト教の布教禁止令を發布した。
爾来、徳川幕府は、15代將軍徳川慶喜までの長い期間、外國

による侵略を防衛して来た。

我が国が、歐米諸国による植民地化を免れれた世界唯一の独立国として今日あるのは、「島国だから、何だかんだと理由を並べる者がいるが」、結論的には、徳川幕府の大功績だと認めるべきでしょう。

この点は「歴的ともいふべき、建国以来の功績に対し、アヌイ家も國家も何の反応も示していない。

「歴上の首領」といふのでしょうか。

この際、「徳川幕府に対する国家表彰」の実現在、朝日新聞社として発起して頂いたうせ口何でしょうか。

4. 「不倫・離婚、ハードル依人「本邦世論調査」」

数々改めて教育が50年間経過した今日、「家庭の崩壊」、「道義の崩壊」、「世界一の犯罪国家に成長した日本」等の情勢下において、不倫や離婚など日常茶飯事の乱交時代である。「本邦世論調査」等と大きさに鑑べ程の問題ではなく、興味本位の茶番劇に過ぎない。

但し、筆者書籍にある、「人間の業」の領域である。ただ义理も上思ひことだ、良いこと反対と判断でき反対の問題でめることは確かにありとの御意見七本、何となく「ホント」とさせられておりまち。

C. 橋本政権に対する攻撃と悪質な批判記事を3月27日より1ヶ月間に別途3回(4件)も掲載し、一般読者に対する徹底的反洗脳工作を行つた上で「世論調査(4月27日発表)等、何の価値もない。

ところ朝日新聞による「悪質な世論調査」などの批判を根拠、「筆禍事件」として新聞報道の是非論が浮上する危険性を演じ方ではないでしょうか。

別途添付第3号

將足本項は開拓の世論調査の準備工作として煽動記事を1ヶ月間に亘り徹底的に報道した内容と記事について。

D. 天皇陛下の御歎美に関する記事(別途添付第4号)

石原未次報道本、朝日新聞の品格を疑われ、失笑を買つのみ、又、何の在りに御歎美がそんたく真意が解つていない。

尚、社説では、(1)、日本はサンフランシスコ平和条約にもとづき、連合國の捕虜に償い金を支払った。
5、

1990年秋にひいて、時々の首相は謝罪を繰り返している。

(2)、捕虜、慰安婦、等の戦後補償問題に関する経済大国になつた我が国が手をこまねいているのは許されまい。

以上など、まるで、「美國に神かの御機械同じくに過ぎない。」この際、英國に対する小生の個人的見解について申し述べさせて頂きま。

「英國は紳士の仮面を脱ぐて「闇の魔王」として居てアリまち、その理由は、日英同盟を利用して永年の間、日本を翻弄し、最後は、国際連合(リトン卿)による「瑞州引揚げ命令」である。

これが、軍部を挑発する結果となり、世界大戦に突入してしまつた。これらの経過は、全て、英國が組立てたスケジュール通りに進行の方だ。淳純な日本人の性格を皆人利用したこととのようだ。

然し、以上申し述べることは、歴史出来せん、一種の「神かの御機械」だと御理解願ひま。

然しながら、陛下の御詔勅記録に關する限り、朝日新聞社が日本新聞社などとはとても若えられません。

E、10年7月13日付、「参院議員は、自民党敗。有田退陣へ」関連記事。
(別途添付方5号(5月10日～7月13日))

年が9年7月13日(1年前)の社説に対する、「危険な微候を感じ在」と御報告しました。

10年4月27日の世論調査によると、「賛成世論調査」はまだ「筆禍事件」で止しました。

然し、5月10日以降の新聞調査は一級とエスカレートし、次のよう
に(1)「差止められない」(参院選を前に), (2)「政治家よ、プローブ」,
(3)「眞時刻刻山」,(4)「虎視眈々」,(5)「ポリテクヒップ」,(6)「ヒーヒー
問題を考へて(「ひひ参院選」), (7)「筆業は(「ひひ参院選」),
(8)「討論」,(9)「世論調査」,(10)「参院選本在情勢調査」等々
の特別記事が数多く登場し、まるで全社一丸となっての総力戦
体制のようにならざるを得ず、このあたり情勢は、「筆禍事件」
の生易しいものではなく、「筆は凶器」であることを実証した
「筆殺事件」であり、国家的大問題として告発されるべき性質の
ものだと理解しておけま。

(6)

6.
即ち、朝日新聞社が橋本内閣に対する1年以上に亘る徹底的反対質攻撃により生じた被害について慎重に考察した結論は、
記

1. 保守本流の政治家で、日本海健のために寒々とされた放送田原春樹
が田中角栄首相以来、世界に通用する一流の政治家として期待されながら、久々に登場した橋本首相に対し、まだ「怨念」でもはうすのような執拗な攻撃で株殺してしまつた。

この事は、日本通の大損失といわゆれば「反り返し」。

朝日新聞社は、橋本首相以外に誰を、何を期待しての行動だつたのか理解にお答え下さい。

私こそ、今日の木村氏非常事態不払いにて、自己奉公の無道見及
行為など「大死に伍する罪」などの自覚を求める所を得ません。

2. 橋本首相に対し、「経済政策の誤認」など1年以上も継続して
報道しており、世界各国に日本は潰れ木方と宣伝しているふうな
もので、世界的な経済恐慌を矢張り、危険性を包含している。
現在、世界各国の中で安定した経済活動の基盤を持つている
のは、日本を置いて外には余り無い。

アメリカは、同盟国日本の経済力を裏りに見ており、日本が「前進へば」
アメリカも前進する。

私こそ、東南アジア諸国の好景気など、裏数露頭となる危険性
をばらんでいる。

3. 私が承知している朝日新聞の記事で、「官僚機構と経済界
の活動」に関する演説の言辞を拝見した誠徳が余りありません。
然るに、終戦以来、苦労を重ね、今日の木村氏経済大臣に押
しつけた功労者は、(1)、経済界の活性化努力。(2)、官僚次政
治家による過度の指導。(3)忘れておらずにはアメリカ経済界の
脚協力。等です。

但し、政治家といつても保守党の政治家(社会党の一部を含む)
であって、其の他の社会主義政党及び共産党等は、終戦以来
何の功績もなく、鬼畜に頽つてゐるのみです。

又、朝日新聞社も同じようなもので、一生懸命に努力して
日本の保守勢力に反対しているのみならず、国民党の反対事を
書いてゐる。

然しそれが、この件については、朝日新聞本來のものとは信じて
(ウ)

あります。

「國の魔王」が誘導する「日本侵し」が絶に影響された
一時表現像をと信じておられます。

4、前記 3.(1)の「経済界の必死の努力」実像について
我が国の資本主義は家族主義的であつて、アメリカのよう底個人
主義的(能率主義的)な資本主義ではありません。

即ち、終戦後、全国反ゴート本と云つて、四箇国から一箇国へ
の相手業に結集し、協力体制を固めたが、いつゆる、家族
主義的底堅体制であつた。

即ち、個人の利益ではなく、企業の利益、結果として国家の利益
のために一丸となって奮闘しておられましたようの方。

然しながら、世界の経済大国となり、生活指数が向上するにつれて
つい、アメリカの能率主義的資本主義に対する抗議は、無理
なく云ふことに云ひ、一派企業では、現在、アメリカ式能率主義に
切り換わつておられます。

然しながら、この制度は、元来、日本人の不均等本制度のうえで成り立つ
世界の趨勢又はすれば、已むを得ないと云うことにつつてゐるだけ。
されば、従来諸國にとつて、能率主義的運営は不可能に近く、
又たゞ、殖民地に適応りと云ふことに云ひ、何等の救済措置を
講じない限り、世界動亂の基として永久に平和な世界は望むべ
くもありません。

この際、経済界としては、少く不利な立場に立つのを知れま
せんが、世界平和のために、家族主義的資本主義の安定した
制度の確立を急ぐと共に、米・政務官に同調を求める運動
を積極的に推進して頂きたい。

尚、アメリカと云ふも、能率主義の欠陥につりつけ十分理解して
あり、家族主義的資本主義は輸出方法の能率性は、案外、早いの
が体ないござりか。

朝日新聞と云ふも、世界平和のために、一肌脱いで貢献したい。

、自民党小説家三新義義に國すみ園連続第

(別冊游行方略 (7月14日～8月20日)

小説「内閣初登場までの切札」19時まで休止してから
街に現れた下記車廻について、感想を述べさせて頂きます。

(8)

記

8月18日(192号)「社説」田安・株安、小渕内閣への不信感。
田安・株安は國腹とみつており、この件は同じく朝日新聞
による猪木銀次郎を報道した世界中の日本の危機を宣伝
して朝日新聞の責任であり、「経済政策への不信」が3つの成
分とも辰巳終が体験されたらしい。

8月20日(192号)米駐日大使が米国での猪木で、最近の日本の經
済政策について、「日本は大いにやっている」と評価している。

8月20日(193号)「夕陽美術」加藤周一、(周辯日邦)

8月22日(32号)「猪木は先生がどうこと思つておられたか」
今回の周辯日邦では猪木が「お父さん」という名前で猪木にありまつた。

G. 小渕總理の日米首脳会談までの経緯に関する議事録。

(別途添付資料(8月21~9月5日)切り抜き97枚)

特口として下記事項について、感想を述べさせて復述する。

記

9月13日()作家、又川好氏、「等身大」の大統領、現代米
國の眞面目。

おひじる目的がむづかしくて利り害れ。

9月21日(大字6)「五代しておひれ木」(国家公庫江戸御藏)、
又川好氏の「蓬舟に浮く夢山走記」を採録され
たが、中国の参謀遠の又川好氏の面接と理解される。

9月20日()内閣折衝あるか日米首脳、(9月22日の日米首脳
会談の会場付ロケテラ一郎で行内見ることに決った。

9月24日()日米首脳会談

会場付ロケテラ一郎で内見、ニューヨーク市のホテルを渡り立水橋。
会場渡りには時節柄、何となく寒さを感じた。

9月24日()「社説」日米首脳会談。首相は責任を果たしき
小渕總理は、一生懸命やつていいしやが、朝日新聞は猪木を承
知し、自説主張、強調されてくる猪木がうまいと思われた。

H. 小渕總理の日韓首脳会談までの経緯に関する議事録。

(別途添付資料(9月26日~10月15日)切り抜き89枚)

別途添付資料(9月16日)承認付付、後日お届けせしもの。

(9)

以上のようないふ況と経緯を、切り抜きに入り脚報告申し上げました
重ねて、次のようす脚賞用をさせて頂きました。

記

1. 橋本元総理に因る事件

日本の総理に対する日本新聞社が、自分も含めず、人身攻撃や
経済政策の誤認等と悪質な批判を並べ立てて1年以上も執拗
に攻撃を行い、失脚に追い込んだ者は、日本では前代未聞の出来事
だと讃嘆しておりまつ。

つまましては、前に述べておおりましたが、何が目的で二つとも大きな事
を取つたのかお知らせ頂きたい。

「橋本総理の失脚」、「自民党議員」、又は「何歳の誰を推薦
する」とか、「団体の覆面」とか、或は、「特殊な団体の指名で無い
だ」となどと云つて「反対して」しようね。

次と云うのは、このような日本の悪い情報が世界中に流れ、経済大国
も一瞬にして政権の運営に大きな危険性を危惧せねばなら
ないため、こんなことが朝日新聞の人選に判らない姿がないとすれば、
彼女の上での行動と云うことに対する反対。

その外に、副産物として発生したのが、やうせの裏面が判りませんが、
朝日新聞が公告を出している「現代」と「ポスト」が6月から、「文藝」
「新潮」、「FRIDAY」、「AREAL」等は4月から、其の他の週刊誌や
雑誌等が依次々と悪態の限りを盡して見出し競争を始めたのです。

朝日がやつていてからまたと云うことでしょうか。

まるで「礼儀」と云う言葉の反意のようですが。

2. 小渕新総理に因る事件

朝日新聞が橋本総理を追いつめとした結果に満足し、隠を取めた
のと思つてゐるので、8月15日付で質問状を提出するへと書類を一旦
作成しましたが、小渕新総理は窓口を粗らしく人身攻撃が又立ち
始めました。

これにて、目的が橋本総理だけではなく、自民党の解説を粗ら
に見下しているので、8月15日付で質問状を提出するへと書類を一旦
作成しましたが、小渕新総理は窓口を粗らしく人身攻撃が又立ち
始めました。

日本は、アメリカの人权、民主主义にお付合いしているようですが、来世纪内
中国や印度などと共に、佛教や儒教精神を主体とした「人道主義」
を標榜し、經濟活動で、日本式の家族主義的資本主義が世界中に
侵入し、平和共存の世界が誕生する。

以上

(10)